

鹿屋市にある指定文化財

県指定 4 件、市指定 98 件の合計 102 件の指定文化財のうち 44 件を掲載しています。
(平成 23 年 4 月 1 日現在)



古墳時代（5世紀頃）の短い「よろい」と戦いの時に頭にかぶった「かぶと」。昭和25年、西祝川町井之上の地下式横穴から発見された。



春祭は毎年 2 月第三日曜日に行われる山宮神社の神事で正月踊（棒踊り）・カギ引き、農夫がこっけいな会話で行う田打ちが行われる。



昭和36年、田崎町老神の工事中に18,122枚が発見された。約70種類の中国銭で、ほとんどは北宋銭で室町時代に埋められたものと思われる。



6基の板碑があり、南北朝時代、争乱による死者の供養や生きている間に自分の冥福を祈って立てられた。



高隈郷の鎮守神社で、本殿は1653年(承応2年)に建てられた。三間社流れ造り、杉などの木を薄くそいで屋根をふいた柿葺き（こけらぶき）である。



高さ0.9cm程の小さな阿彌陀如来像。花岡島津家六代久誠の妻時子が所持していたもので高さ3.8cm、幅2.1cmの厨子の中に納められている。



この五輪塔はパーツごとではなく、一つの軽石を削ってできている。図師氏の逆修供養塔で鎌倉時代前期に建てられた。



1690年（元禄3年）庚申講衆中が造立したもので、像そのものは延命地藏菩薩である。



全高2m。この六地藏は「イボ」の神として生まれ、塔身に大豆を供える風習があった。そのため指が入るぐらいの穴が数多く見える。



右手にシャモジ、左手にスリコギを持ったユーモラスな表情の田の神で、田植え前には豊作を祈って集落の人々によってお化粧がなされる。



頭にコシキをかぶり、左手にスリコギを肩にかつぐ格好で持ち、クビにかしげるこっけいな田の神像。



1847年(弘化4年)造立。製作者は「佐吉」とある。左手にスリコギをたてに持った丸顔の田の神である。



鎌の柄に両手をおいだ、鎌持ち田の神で、ほぼ完形で残っている。大きなシキを背後に長く垂らしてかぶっている。



1539年(天文8年)造立。戦国時代、田代一族の死者の冥福を祈って建てた追善供養塔で、市内の六地藏の中でも古い時代のものである。



観音像には梵字が刻まれ彩色がされ、長谷信仰の南限に近い観音と言われる。石塔群は長谷一族の逆修供養塔群で、長谷氏の相輪文様がみられる。



観音像は如意輪観音で江戸時代中期の作である。法華経を読んだ大乗妙典読碑は1717年(享保2年)に造立された。



月輪を背にした如意輪観音の月待供養塔は県下で数少ない。右足は立てひざをし、右手で頬をささえ、左手にハスをもつ。1733年(享保18年)造立。



右足を少し上げて歩く姿を表現した山伏僧の田の神像である。頭にはコシキをかぶり、右手にはスリコギ、左手にはシャモジを持っている。



塔身に延宝五年(1677年)と刻まれており像形のしっかりしたものでは串良地区で最も古い六地藏塔である。



一枚石の平面に六地藏が並んで彫られている。六地藏といえば六面体の塔が一般的に知られており、大変めづらしい。



袖長の長衣にコシキをかぶり、右手にスリコギ、左手にシャモジを持ち、右膝を少し立てている。ブツリとした田の神像は南向きに立っている。



右手にスリコギ、左手にシャモジを持ち、頭にコシキをかぶった旅僧型の田の神像で、吾平地区内で最も古い。



高隈の柚ノ木原墓地にある。鹿屋市内にある六地藏塔のうちで最も古い1535年(天文4年)に造られたものである。



江戸時代前期の1674年(延宝2年)に造立された塔で、背面金剛を本尊とする庚申塔では市内で最も古いとされる。



馬頭観音と左手に弓、右手に矢を1本持ち、背中に矢を2本背負った勇壮活発な姿の庚申塔が立てられている。



中津神社に伝わる神事。農林業の発展を祈念し、上高隈・下高隈が雄鉤・雌鉤の神木を引き合い勝負をする。勝てば1年間豊作になるという。



江戸末期、加世田の職人から伝えられたものといわれ、「川踊り」とも呼ばれた。鉦打ちと太鼓打ちに合わせて隊形を整えながら踊る。



応永末期から戦国期にかけて築城改築された城で串良城ともいう。城跡は串良公民館の隣にわずかに現存している。



天正年代、島津氏の外城として地頭仮屋がおかれていた。現在、東側に石堀の一部と仮屋門が残されている。



全高1.9mで大隅半島でも大きな五輪塔である。もとは西目川路にあったと伝わる蓮入寺阿彌陀堂の脇にあった。



五輪塔1基、宝塔1基、板碑2基、奉寄進の文字が刻まれた石塔1基、五輪塔残欠。この石塔群は同一族のものであるという。



墓地は、花岡島津初代久儔から9代久基に至るまでの歴代のもの。男女により形が違うなどの特徴がある。



肝付氏の武将が築城したといわれる。北側はシラスの絶壁、東南側は急斜面で、両側は堀が造られ攻めにくく、守りやすい城であった。



薩摩藩の一向宗禁制による弾圧を免れるために造られた念仏洞で、暗夜や嵐の日などに、こっそり集まり、本尊を拝み、読経した跡である。



戦国時代に金剛経を一万巻読誦した記念に建てられた石碑で大隅半島でも非常に珍しいものである。



鎌倉末期から室町前期にわたる肝付氏系統の宝塔21、五輪塔20基が復元されている。



1395年(応永2年)に源翁和尚によって建てられた由緒ある寺であったが、廃仏毀釈により廃寺。寺跡には源翁和尚などの供養塔が並び。



天然の岩屋の中に安置されている観音でおだやかな表情の観音像である。



大隅半島内陸部にある前方後円墳では、南限であり極めて考古学的価値が高い。写真は、埴型はそう。



鹿児島県下で最古の長方板葺短甲・頸甲・肩甲が出土した古墳。その他勾玉、管玉が出土した。



高さ約15m、幹まわり約6.3mのいぬまきの木で、中央公園近くの熊野神社境内にあり、風格と威厳を備える。



周囲が2.5m高さ20mを越す巨木で樹齢約300年を越すものであり、地域のシンボルとして親しまれている。



周囲が5.9m高さ20.5mを越す巨木で樹齢約260年を思われる。秋にはたくさんのギンナンが実り、地域住民に親しまれている。



ひぜんまゆみはニシキギ科の植物で、横尾岳公園には十数本が自生しており、保護林となっている。

●お問い合わせ●
鹿屋市教育委員会
文化財センター
☎0994-31-1167
<http://www.e-kanoya.net/>

考古資料	史跡
有形民俗	天然記念物
無形民俗	000 輝北エリア
建造物	000 串良エリア
彫刻	000 吾平エリア
	000 鹿屋エリア

※説明文の背景の色

